確かな学力の育成について

義務教育課、学校人事課

資料3

課題

- 「基礎的・基本的な知識・技能を活用し課題解決を図る力」の育成
- 各学校における組織的・継続的な学力向上対策の推進
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
- 英語教育の早期化・教科化・高度化への対応

現状・成果

- H29年度全国学力・学習状況調査結果　（国）

小学校	国	A：75%（74.8%）	B：57%（57.5%）
	算	A：78%（78.6%）	B：44%（45.9%）
中学校	国	A：79%（77.4%）	B：75%（72.2%）
	数	A：65%（64.6%）	B：50%（48.1%）

＊平成２９年度の中学校３年生は、小学校６年当時と比較し、今回の調査では全体的に学力が伸びている。

- 英語教育実施状況調査（目標H30 50%）
  H28年度英検３級程度以上の生徒　39.8%

主要な取り組み

①指導体制の工夫改善

【施策の方向性】
〇児童生徒の発達の段階に応じた指導体制の工夫による組織的・継続的な取組の推進
【具体的な施策】
〇ぐんま少人数クラスプロジェクトの推進
〇小学校における教科担当制の推進
〇小・中学校兼務教員の配置の推進
〇学力向上委員会の設置及び学力向上コーディネーターの指名
〇学力向上のための特配教員の活用

〔全国学力・学習状況調査　学校質問紙調査結果〕
【算数・数学における習熟度別指導の実施】
平成29年度　小学校　73．2%（国　61．9%）
　　　　　　中学校　60．3%（国　49．2%）

【小学校算数の授業における教科担当制の実施】
平成29年度　29．4%（国　9．0%）

【授業中の私語が少なく、落ち着いている】と回答
平成29年度　小学校　92．2%（国　90．7%）
　　　　　　中学校　96．4%（国　94．6%）

②指導資料の活用

【施策の方向性】
〇各教科・領域別に指導の基本を示した「はばたく群馬の指導プラン」に基づく授業の推進
〇新学習指導要領を踏まえた、改訂版「はばたく群馬の指導プランⅡ」の作成
【具体的な施策】
〇指導プランを活用した、年間1人1授業以上の授業公開の実施
〇小学校における「評価資料」の活用
〇指導プランⅡ作成委員会の実施

〔教育課程等編成・実施状況調査結果（H28）〕
【指導プラン・実践の手引きの活用状況】
※授業以外の活用場面　（%）

	校内研修	授業研究会	指導案作成	授業参観
小学校	94．1	80．6	96．4	43．2
中学校	83．4	70．5	93．2	31．9

【授業における評価資料集の活用状況】
・単元ごとの学習状況の評価　54．5%
・学期ごとの学習状況の評価　36．4%

③教育課程の改善充実

【施策の方向性】
〇新学習指導要領の各教科等の目標・内容を達成するための授業改善の推進（「主体的・対話的で深い学び」の実現）
【具体的な施策】
〇新教育課程説明会の実施
〇全国学力・学習状況調査結果説明会の実施
〇英語教育強化地域拠点事業の実施
〇英語教育アドバイザー教員（EAT）の活用

新教育課程説明会参加者数（予定含む）
小学校12教科合計　3179名（1校平均10．4名）
中学校12教科合計　1786名（1校平均11．1名）

英語教育強化地域拠点事業
公開授業参加者数（H28）
小学校12校　合計　1102名
中学校　5校　合計　370名

英語教育アドバイザー教員
配置数　10名（県内10市町村）
サポート会議年間10回

今後の方向性

〇今後とも各学校が、児童生徒の発達の段階に応じた指導体制を工夫・改善することにより、基本的な学習習慣や生活習慣の確立を図り、基礎学力を定着できるようにする。
〇全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく授業を実践できるようにする。
〇小学校英語教育の早期化・教科化を踏まえ、地域差なく県内全ての小学校における授業の充実を図るとともに、中学校の授業が英語によるコミュニケーション力を育成する授業へと転換できるようにする。